

白建第112号

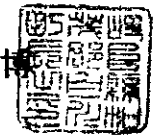
平成20年10月17日

国土交通省道路局長

金井道夫様

岐阜県白川町長

今井良



今後の道路行政についての意見・提案について

平成20年9月19日付け国道企第37号によるみだしのことについて
別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岐 阜 県 白 川 町

1. 地元負担金と道路用地の確保について

受益者負担は必要なことであり、あらゆる地元負担を否定するものではありませんが、不特定多数の国民が利用する道路には、地元負担ゼロで国が計画するとおり建設整備してはどうか。

但し、道路用地については、必要経費は国が負担するとしても、地主や地元住民との交渉窓口は地元の県、市町村が先頭に立つて行うべきではないかと考えます。

2. 道路整備の「効果」について

道路整備計画を実施に移す段階で一番強く影響するのは、「費用対効果」になりました。しかも、利用車両台数のみが突出しています。

たしかに、道路は利用してこそ効果が発揮できる社会資本ですが、道路には色々な役割があると考えます。車社会の一番の恩恵を受けているのは農山村です。公共交通機関の少ない農山村では、命の道路です。生産される農林産物も背中にかついで都会まで持っていきません。物流の道路です。今、都市と農山村の民間交流とか農山村移住とかが始まっています。人の交流道路です。

農山村は、従来閉鎖的な風潮がありますが、実際は開放的で、人情的で、最も日本人的な風土が保たれている地域です。こうしてがんばっている農山村を応援する国策として幹線道路の安心安全整備があると考えます。通行車両台数のみで「効果」を測定しないでほしい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

岐 阜 県 白 川 町

○現状

今から 50 年前、飛騨川バス転落事故が私の町で起こりました。国道 41 号の 2 車線改良整備が完了して間もない時でした。バス 2 台が山腹崩壊の土石流で押し流され 104 名の尊い人命が失われた事故で、その責任問題は最高裁まで争われ、道路管理者責任が厳しくなった事故でした。

このため、雨量制限による通行止めも行われるようになり、現在もその規制区間が多く残っております。事故は 100 年に 1 回の惨事でしたが、毎年のように雨量規制通行止めがあり、安心安全への不安が未だに解消されていません。

○課題

危険だから「通行止め」すると言われますが、観光客なら「もう 1 泊」ということですが、生活道路として毎日通勤に使用している人にとって、白川町に定住していることに不安を抱く人もあり、下流域の川辺町や美濃加茂市に移住する人もあります。このままでは、都市集中がさらに進みます。人々の暮さなくなった集落、農地は荒れ、森林も人手が入らなくなり少しの雨でも崩落します。

農山村に人々が暮すという意味は、美しい農村を守り、人々が豊かな緑の森林を育てるということであり、このためには、安心安全な幹線国道があることが絶対条件である。

人間は、ただ単に合理的に経済的に1ヶ所に集まって生活すればよいのでしょうか

高度経済成長期、農林業は忘れられ、全ての国民が現金収入を求めて、工場へ働きに出た。その子供たちは、自分のふるさとがどこかわからない人間となり、団地のアパートがふるさとになった。さらにその子供が、今の日本を支えようとしている3代目である。昔から相当のお大尽でも3代でつぶれると言ったものですが、日本も3代目でいよいよ崩壊するのでは…

農山村は、老人から赤ちゃんまで各年齢階層が混在し、集団の中ではあるが、お互いに助け合って暮している。こうした散居の集落は上下水道も情報インフラも、ましてや道路整備にも多額を要する。しかし、多くの元気な老人は農業、林業、そしてゲートボールにがんばっている。

今一度「いなか暮らし」の社会の良い所を検証して、日本人らしく生きるために、農山村の再生を図る必要があると考える。このためには、社会生活インフラの整備は言うまでもなく、いざという時の幹線道路整備やヘリポートの整備が必要となる。

手で田植えをしたり、はざ干しをする農業ではなく、できる限り機械による楽な農業を導入しながら、しかし、稲はいつ植える、いつ収穫できる、大根はいつ種を捲くかを体で覚えながら、1年を農山村で暮せるような地域を目指します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岐 阜 県 白 川 町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 地域活力の向上	・ 道の駅の整備促進（強化充実）	・ 災害時の避難場所（一時退避） ・ 地元農産物の直販による地域活性化	・ 連携の強化 ・ 道の駅の情報交流
・ 災害に強い国土づくり	・ 雨量規制による国道通行止め区間の解消	・ 安心安全に通行できる幹線道路 ・ 観光客の誘致 ・ 沿線住民の定住促進	
・ 良好な景観の形成	・ 風景街道の指定を受けた「四季彩街道」の除木草刈 ・ 国道 41 号「飛泉橋」の架替	・ 町民の力による清掃活動を活発にすることにより「みんなの国道 41 号」の気運を盛り上げる ・ 白川町内の「飛泉橋」はほぼ直角になっており交通事故が多い ・ 飛驒川右岸の橋台を少し上流部に移動させることによりスムーズな交通が確保される	費用の助成が必要 JR 白川口駅の近くでもあり、同時に改良できると良い